

風雪の高見山登山

2月2日(木) 健生会友の会山歩きクラブの第94回例会登山として高見山へ雪中登山が行われた。

参加者は22名、御年84歳のTさんを含む女性は9名。女性が少ない例会は珍しい。

面白い勸請吊り

チャーターしたマイクロバスで8時過ぎに東吉野村の杉谷登山口に到着、雪に覆われた登山道を登り始めるとすぐに小さな社があり、その前に人の背丈より高く、縄が張り渡され、その縄に鍬、鉋、はしご、斧などの道具と赤い魚(鯛か)のレプリカ(模造品)がぶら下げられている。恐らく、この集落の民俗行事で農作業や山仕事の安全や成功を祈願した「勸請吊り(かんじょうつり)」なのだろう。それにしても山奥の村で鯛を用いるとは面白い。



顔面を叩く氷雪

雪は深さを増し、傾斜はきつくなる。小峠でアイゼンを装着。雪を踏みしめつつ、ゆっくりと登る。ゆっくりだが全員快調。氷雪を切るアイゼンの音がリズムカルに響く。

国見岩、笛吹岩などを過ぎると吹きさらしの痩せ尾根に。冷たく強い風が雪を巻き上げ、枝々に張り付いた霧氷を引きはがして、遠慮会釈なしに顔面に叩き付けてくる。

おしゃべり大好きの人たちも、さすがに言葉少なく、

顔を風からそむけながら粛々と歩いている。

身に染みる避難小屋のありがたさ

11時過ぎに山頂着。駆けこむように避難小屋に入り、みんなホッとした表情に。

すぐに賑やかさ復活。談笑しながらの弁当が美味しい。



春先、陽の当たる登山道の傍らにそっと咲いています。花の名を聞いた人は華やかな姿を想像するかもしれませんが、どちらかと言えば地味な小さい白い花です。ネーミングは葉の特徴からで、やや厚めの感じの長楕円形の濃緑の表面に紫色の筋が葉脈に沿って走り、裏面は紫がかった色になります。

花の形が、同じ仲間のキランソウやジュウニヒトエに似ていますね。私にとっては、二上山の春を象徴する可愛い花の一つです。



ミツマタ↑ では、サザンカや紅白のウメに続いて、ボケが真っ赤な花を見せ、ミツマタが開花の準備をととのえています。もうすぐ黄白色の花をいっぱい咲かせ、あの甘くて強い芳香を漂わせて春のおとずれを告げてくれるでしょう。

また、青空に自在に枝をひろげたコブシも、寒風の中で、つぼみを膨らませています。

↓コブシ



春はもうそこに

記録的な大雪で、交通が麻痺したり、家々に被害を受ける地方がでるかと思えば、長崎の友人からは河津桜や緋寒桜の満開の画像が送られてきたりします。

二上山の雑木林は、まだ冬ざれた風景ばかりでわずかにヤブツバキやサザンカが彩りを添えています。気まぐれな陽気に騙されたのか、所どころで狂い咲きしたモチツツジの花が哀れです。

一方、山麓葛城市のふたがみパーク **ボケ↓**



コブシは、二上山の西側山麓にある万葉の森からの登山口にも、何本か植えられています。二上山の南のピーク・原岳から麻呂子山に伸びる稜線にも一本あり、もうすぐ、純白の花を咲かせるでしょう。晴天の日の下から見上げるために、あの稜線を訪れなければなりません。